

工学教育協会 第 74 回年次大会 (2026 年度)
工学教育研究講演会ならびに国際セッション講演募集要項

今大会は、会場での口頭発表とポスター発表形式を基本として開催します。加えて、大会Webサイトを利用した録画発表も受け付けます。なお、ポスターの申込が少ない場合は、口頭発表で編成します。リアルタイム配信等はありません。会場の特性を考慮し、ポスターセッションは大会2日目(9/3(木))に開催予定です。

1. 大会メインテーマ

「地域の未来を切り拓く工学教育」

趣旨：我が国は今、人口減少や産業構造の変化、さらには一部で見られるグローバル化対応の遅れ等、かつてない勢いで多様かつ複雑な課題に直面している。その影響はとりわけ地方において顕著であり、地域の持続的発展のためには、課題解決を先導する人材の育成が急務となっている。このような時代の転換点にあつて、各高等教育機関は、地域に根ざしながらも世界に開かれた視野をもち、自ら考え、挑戦し、創造できる人材を育てる責務を担っている。同時に、企業や自治体もまた、地域産業と連携しながら特色ある教育・研究活動を積み重ねてきた。こうした実践の蓄積こそが、日本の工学教育を支える大きな力であり、未来を拓く原動力である。

本大会では、その原動力となる実践研究や最新の取り組みを結集し、地域の産業・文化・自然資源と結びついた実践的教育、デジタル技術を活用した新たな学びの形、そして大学と地域社会の協働によるリカレント型人材育成モデル等を通じて、これからの時代に求められる工学教育の姿を探る。温故知新の精神のもと、工学教育の原点にも立ち返り、「技術を通じて人と地域を幸せにする」という使命をあらためて胸に刻みたい。本大会が、教育・研究・社会連携の新たなマイルストーンを描き、地域の未来を自らの手で切り拓く人材育成を実現するための、力強い一歩となることを願っている。

主催：日本工学教育協会、東海工学教育協会

日時：2026年9月2日(水)～4日(金)

会場：岐阜大学

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

Tel. 058-293-2365

2. 講演募集テーマ

2.1 一般セッション講演：工学教育・技術者教育のさらなる多様化や、これまでの年次大会で得られた参加者アンケートの結果等を踏まえ、以下の分類で募集します。申込時に登壇方式を選択してください。

(01) 大学・高専・企業等における教育

(01-1) 講義・演習形式によるリベラルアーツ教育方法とその教材開発

基礎科目、初年次教育のための講義・演習、教材の開発、一般教養教育、技術者倫理、等

(01-2) 実験・実技を通じたエンジニアリング・デザイン教育の実践方法とその教材開発

実験・実技・教材の開発、ものづくり教育、リメディアル教育、エンジニアリング・デザイン教育、等

(01-3) 理工系人材育成に関する高専教育の実践と展開
高専教育、体験入学、高専・技科大連携、デジタルものづくり、社会実装、等

(02) 教育力・教育手法・教育システム

(02-1) 工学教育・システムの個性化・活性化

e-ラーニング、プロジェクトマネジメントとPBL、教育評価・自己点検・評価システム、グッドプラクティス、等

(02-2) グローバルスタンダードに対応した教育システム
機関認証評価 (JABEE)、等

(02-3) AI・データサイエンスおよびSociety 5.0に対応した教育システム

AI教育 (AIに関わる技術者倫理、生成AI活用も含む)、データサイエンス教育、等

(03) ICTを活用した教育システム

オンライン、オンデマンド、ハイブリッド、メタバース、ロボット、等

(04) 企業・地域連携教育

(04-1) 高大院連携、社会・地域貢献、社会人教育、企業における技術者教育

高大接続、学部-大学院一貫教育、企業連携、地域連携、等

(04-2) インターンシップ教育、企業×大学

インターンシップ、コーオペ教育 (Cooperative Education)、企業と大学による共創教育、新入社員教育、等

(04-3) アントレプレナシップ教育

起業家教育、マネジメント教育、等

(05) 学生セッション (学生による登壇に限る)

学生の教育活動事例、学修活動事例、等

(06) 多様化時代の教育手法とそのシステム

多様な学生への学修支援、個別最適化、女性エンジニア育成、ダイバーシティ、等

2.2 国際セッション講演：テーマ「工学教育における国際連携」。申込時に登壇方式を選択してください。英文投稿・発表となります。

3. オーガナイズドセッション:テーマを公募した結果、下記の8テーマを開催します。詳細は本誌113ページをご覧ください。なお、オーガナイズドセッションはすべて会場講義室での登壇となります。

- (07)OS:工学教育における合理的配慮について
- (08)OS:高等教育とウェルビーイング(その3)
- (09)OS:産学連携・地域貢献に取り組む学生の活動事例(学生による登壇に限る)
- (10)OS:産業界とつながり、共に描くコミュニケーション教育のデザイン
- (11)OS:STEAM時代における工学倫理教育
- (12)OS:Society 5.0時代を担う理工系人材育成に関する高専教育の実践と展開~高専における取組~
- (13)OS:地域社会における工学系のダイバーシティの課題
- (14)OS:ものづくりの技能科学

4. 登壇者の資格

- (1) 日本工学教育協会、または各地区工学教育協会の個人正会員、団体正会員(学校・企業等)、海外友好団体および賛助会員に所属するもの。
- (2) 協賛学協会の個人会員。

なお、学生の登壇の場合は、共著者に指導教員を加えてください。また、発表には、上記(1)、(2)の資格を有する指導教員が同席することを原則とします。学生の録画登壇は事前に指導教員のチェックを受けてください。

5. 発表の申し込み

論文とアブストラクトの同時申込とします。申し込む際には、大会Webサイトの応募要領、Call for Papersを参照してください。

- (1) 受付期間:2026年4月1日(水)~5月18日(月)、大会Webサイトにて。
- (2) 申込者には、6月初旬に採否を通知します。録画登壇用の動画提出は採択後になります。動画の審査は行いません。
- (3) 登壇数制限:口頭発表は、登壇者1名につき3件以内、ポスター発表は1件とします。

6. 原稿作成および投稿要領

- (1) 原稿枚数:一般ならびにOSセッションは2ページ、国際セッションは2もしくは4ページとします。大会Webサイトに掲載の執筆要領、Author's Guideに従い作成し、大会Webサイトから投稿してください。書式、内容等に問題がある場合は、不採択となることがあります。国際セッションは論文集を冊子として発刊します。
- (2) 著者の人数は6名以内とします。

7. 発表要領

発表時間は、1題目につき講演10分、討議5分(国際セッションも同様)。登壇方式の詳細は今後公開される大会Webサイトの実施要領、マニュアルを参照ください。

8. 費用、表彰、公開、その他

- (1) 費用:登壇者・参加者は大会参加登録ならびに参加費(資料代を含む)が必要です。登壇者には参加費の他に、別に定める登壇料をお支払いいただきます。支払いは採否通知後で構いません。参加登録者を対象に2026年8月18日(火)から大会Webサイトで論文を公開します。

事前払込参加登録は2026年4月1日(水)~7月30日(木)までとし、申込者には8月18日(火)を目途にプログラム冊子他資料を送ります。7月31日(金)以降の参加登録の場合は、資料は大会会場での受け取りもしくは大会後の発送となります。

- (2) 表彰:優れた発表には、JSEE研究講演会発表賞を授与します。また、国際セッションでの優れた発表には、International Session Awardを授与します。
- (3) 公開:発表論文は、大会Webサイトで一定期間公開後、J-STAGEに登載・公開されます。
- (4) 講演発表後、「工学教育」誌に掲載を希望される方は、「工学教育」投稿規定・執筆要領に準じて改めてご投稿ください。編集・出版委員会の査読を経て掲載します。

9. キャンセルポリシー

開催にあたって、不測の事態が生じた場合は中止、延期等の方策を講じる場合があります。なお、申込者の都合による欠席の場合、論文閲覧・資料送付に替えさせていただきます。参加費等の払い戻しは致しかねますので、ご承知おきください。

10. 担当:日本工学教育協会事務局 川上

E-mail:2026_jsee_conference@jsee.or.jp

URL:https://www.jsee.or.jp/event/conference/

2026年度協賛学協会

IEEE JAPAN COUNCIL(依頼中)、化学工学会、教育システム情報学会、空気調和・衛生工学会、計測自動制御学会、資源・素材学会、システム制御情報学会、地盤工学会、情報処理学会、照明学会、初年次教育学会、精密工学会、繊維学会、ターボ機械協会、電気学会、土木学会、日本応用数学会、日本音響学会、日本感性工学会、日本技術史教育学会、日本教育工学会、日本金属学会、日本経営工学会、日本原子力学会、日本建築学会、日本工学アカデミー、日本工学会、日本数学会、日本数式処理学会、日本図学会、日本生体医工学会、日本設計工学会、日本塑性加工学会、日本デザイン学会、日本鉄鋼協会(依頼中)、日本トライボロジー学会、日本人間工学会、日本防錆技術協会(依頼中)、日本ロボット学会、PMI日本支部、表面技術協会、プロジェクトマネジメント学会

2026年度工学教育研究講演会オーガナイズドセッション (OS) 講演募集案内

OSテーマの公募を行い、寄せられた提案を審議の結果、以下の8テーマで開催いたします。4月1日から、一般講演のテーマ(01)~(06)と同様に申込を受け付けます。なお、オーガナイズドセッションはすべて会場登壇となります。

(07) OS : 工学教育における合理的配慮について

趣 旨 : 2030年度からの学習指導要領にインクルーシブ教育が正式に位置づけられる状況を踏まえ、本セッションでは、工学教育における合理的配慮とは何かについて、改めて整理することを目的とする。

オーガナイザー : 前田 篤志 (Institute of Phenomenal-Science Education, Professor/筑波大学), 米盛 弘信 (工学院大学・准教授)

(08) OS : 高等教育とウェルビーイング(その3)

趣 旨 : 多様なウェルビーイングの実現及び向上に向けた様々な取組みが進められており、教育においてもその重要性が認知されている。ウェルビーイングの実現及び向上を促進する高等教育、特に、工学教育の在り方を検討する。

オーガナイザー : 小林 幸人 (国立高等専門学校機構・学務総括参事教授), 藤木 篤 (関西大学・教授), 福士 珠美 (東京通信大学・教授)

(09) OS : 産学連携・地域貢献に取り組む学生の活動事例

趣 旨 : 学生達が日々学んでいる知識や技能を産学連携や地域貢献の形で生かすことができれば、学修内容の深い理解や達成感を得ることができる。そこで、本OSでは正課外・正課活動における学生の産学連携・地域貢献活動を発表してもらい、活性化に向けた情報交換を行う。(学生による登壇に限る)

オーガナイザー : 米盛 弘信 (工学院大学・准教授), 金井 徳兼 (神奈川工科大学・教授)

(10) OS : 産業界とつながり、共に描くコミュニケーション教育のデザイン

趣 旨 : 急速に変化する産業構造や働き方を背景に、コミュニケーション能力を大学教育と産業界で連続的に育成する視点が求められている。本ワークショップでは、企業側調査に基づく情報提供を起点に、大学側でどこまで育成すべきか、それを受けて企業側がどこまで担うのかについて、双方の役割や期待に関する相互理解を深めながら議論する。

オーガナイザー : 二上 武生 (工学院大学・教授), 山崎 敦子 (デジタルハリウッド大学大学院・特命教授), 和田 朋子 (工学院大学・教授)

(11) OS : STEAM時代における工学倫理教育

趣 旨 : デジタルファブ리케이션・生成AIの普及、SSHや情報必修化、STEAM教育の進展を背景に、中等教育段階から科学技術倫理・工学倫理を体系的に扱う必要が高まっている。本セッションでは、制度・現状・実施条件を多角的に整理し、中等教育⇔高等教育の架橋を検討する。

オーガナイザー : 竹原 信也 (奈良工業高等専門学校・准教授), 藤木 篤 (関西大学・教授), 新谷 幸弘 (千葉工業大学・教授)

(12) OS : Society 5.0時代を担う理工系人材育成に関する高専教育の実践と展開~高専における取組~

趣 旨 : 産業構造や価値観が大きく変化する現代において、次世代を担う理工系人材の育成を目指して、全国の高専が、実践力や課題解決力の強化、先進分野の専門知識の習得、地域活性化への貢献等の様々な取組みを実践している。これらの高専教育の強みを伸ばす事例の紹介を通じて、今後の工学教育の方向性及び大学教育への展開の可能性等について議論する。

オーガナイザー : 鈴木 雅人 (東京工業高等専門学校・教授), 外山 茂浩 (長岡工業高等専門学校・教授)

(13) OS : 地域社会における工学系のダイバーシティの課題

趣 旨 : 達成目標としてのダイバーシティ・インクルージョンは、企業や教育現場で色々と制度は作っても、外部からその結果が見えない。特に地方では周りの社会にバイアスが掛かっている。そこで、どうしたらうまく行くのかまたはうまく行かないのか、情報を交換したい。

オーガナイザー : 佐藤 孝 (新潟工業短期大学・学長), 磯貝 恵美子 (株式会社デンソー・人事部担当次長), 内海 房子 (元 国立女性教育会館)

(14) OS : ものづくりの技能科学

趣 旨 : 本セッションでは、人間の曖昧さ、不確定さ等の感覚性の概念を含めたものづくり技能について意見を交わします。「技能の見える化やデジタル化」、「DX人材育成と課題」、「企業におけるものづくり人材育成」等幅広いテーマで募集いたします。

オーガナイザー : 藤田 紀勝 (職業能力開発総合大学校・准教授), 齋藤 繁 (北海道科学大学), 森口 肇 (職業能力開発総合大学校・助教)